

## 海外林業研究会々員の広場

### 嫌われても国際協力（13） 戦略について

筆者は、出張の手続や、医療費の請求書のような書類を埋めるのが苦手である。定型の事務処理能力は極めて低い。国際機関に勤務していたときは、出張の日程は自分で決めるものの書類は部付きの秘書に書いてもらい、医療費の請求については職員保険の担当者に領収書を渡して書類を埋めてもらっていた。あるときそれに気づいた別の研究員から「私はそのようなことをしてもらったことがない。特別扱いを受けているのはなぜか？」と尋ねられたことがある。「君の場合は君にまかせておくほうが早くて確実だからさ。僕に書かせてもあとから全部書き直すことになるのを彼女たちはよく知っているのさ。」と答えたことがある。

自分で時間をかけてもうまく出来ないことがわかっているなら、最初から上手に出来る人にまかせ、自分にしか出来ないことをすべきである。人それぞれ得手不得手があるのだから、誰もが同じことを同じようにする必要はない。ただし自分にできないことを他の人をお願いしてまかせるためには、自分にしかできないことをもっていて、それを頼まれたら断らないことが大切である。また頼んだことをしてもらったら、きちんとお礼を述べることも大切である。

CIFOR の前所長は「一般論として CIFOR の研究は発展途上国の研究機関の研究に比べ単価が高い。だから他の研究機関にできることをしてはいけない。」と言うことがあった。

また、CIFOR のある研究部長は、「限りのある予算と人材で目標を達成するための組織戦略とは、すべきでないことを明らかにすることである。」と言っていた。あれも大切これも大切と「大切さ」を理由に活動を増やすと、組織として対応できる限界を超えてしまう危険があるためである。（余談ながら、数年後の組織改編で研究部長というポストが無くなり彼は CIFOR を去った。）

自分ですべきこと人に任せる方がよいことを見極めるのは、戦略として重要である。何もかも自分でやろうとして本人に余裕が無い状況では国際協力などできない。自分の限界をわきまえて、できないことはできないときっぱり断るのも国際協力である。

（藤間 剛）